

中国がアジア最大のアボカド輸入国に

PRODUCE PLUS 2024年6月14日

アジアのアボカド貿易は増加傾向にあり、2023年には中国が日本を抜いて初めてアジア最大の輸入国となった

2023年の世界のアボカド貿易量は17%増の340万トンとなった。世界の貿易量の88%は北米と欧州に吸収され、そのほとんどが中南米の生産国から供給されているが、アジア市場への2023年のアボカド輸出量は前年比29%増の18万4千トンとなった。

中国は2023年に6万6千トンを入力し、日本を抜いてアジア最大の輸入国となった。これまでアジア最大の輸入国であった日本は、6万2千トンを入力した。主要な供給国はペルーとメキシコである。

ペルーは中国へのアボカドの最大の供給国であり、出荷量は40%増の5万トンであった。ペルーが76%の市場シェアを占め、チリ(11%)とケニア(6.6%)がそれに続いた。中国とのアボカド貿易の先駆けとなったメキシコは、2千トン(シェア3.1%)を供給し、供給国の構造が変化していることを示している。

メキシコは引き続き日本への最大の供給国であるが、輸出量は10%減の4万5千トンとなり、ペルーは35%増の1万5千トンとなった。オーストラリアは800トンを提供し、日本市場における第3位に躍り出て、より重要なプレーヤーとなった。

韓国の輸入量は6%減の1万3千トンで、市場シェア61%のペルーがここでも首位に立ち、チリとメキシコがそれに続いた。

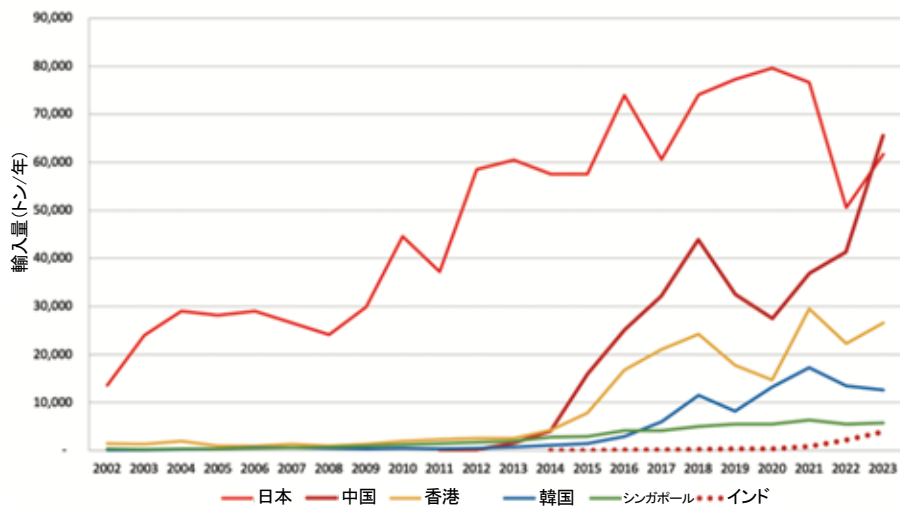
インドもアボカドの大きな市場として浮上しており、輸入量は112%増の3,921トンとなり、そのほとんどがタンザニアから供給されている。オーストラリアとケニアも2023年にインド市場に参入し、輸入量は指数関数的に増加している。

シンガポールは人口560万人の小さな市場だが、1人当たりのアボカド消費量がアジアで最も多く、1人当たり年間1kg、全体で5,790トン消費している。オーストラリアはシンガポールへの最大のアボカド供給国であり、その市場シェアは74%である。

アジア全体でのアボカドの1人当たりの消費量は、0.05kg未満とほとんど測定できないほど少ない。ヨーロッパは1人当たり1.6kg、米国は1人当たり3.5kg以上を消費しており、消費者がアボカドの味に慣れ親しむことによるアジア市場の成長の可能性は計り知れない。

執筆者: ウェイン・プラウズ

アジアの主要なアボカド輸入市場



Source: ITC Trademap based on import data; Fresh Intelligence analysis